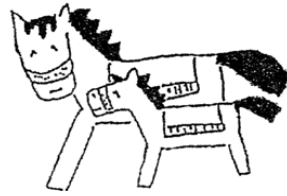


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

26年 3月 NO. 232



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		3月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
3月 1日	土	金子みすゞ生誕110年記念 講演会 13:00～16:00	高松国分寺ホールにて、矢崎・佐治氏の 講演やコンサートなどがあります。		
3月 6日	木	人形劇において 15:30～16:30	とらまる座による「なきむしもたろう」 「ぶ～ん、ちゃりん」を上演します。		
3月 8日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。		
3月 8日	土	笑いヨガ 14:00～16:00	最後の笑いヨガになります。 どうぞどなたでもおいで下さい。		
3月 14日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「おはなしおはなし」をテーマに エプロンシアターもあります。		
3月 15日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験を してみませんか？		
3月 15日	土	お手玉教室 14:00～16:00	2月は、雪のため延期していました。		
3月 19日	水	香川みすゞさんの会 11:00～13:00	3月1日(土)の講演会の おつかれ会をします。(予約要)		
3月 25日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師(小児科)にゆっくり 相談できます。(予約要)		

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放しています ので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
--	---

香川県高松市御坊町2-2
高松保育園 地域子育て支援センター



金子みすゞ童謡全集⑥

遠い月、白さ。
こころ、白さ。
浮いている

春が、飛んできた
きょうの空、青さ。

海から汽笛。
浮いている

あともから子供。
飛んできた
早春



平成26年3月1日(土)に「金子みすゞ生誕110年によせて 今、生きる力をみすゞさんの詩から 」をテーマに、講演とコンサートを、高松国分寺ホールで13時より、開きます。今、みすゞさんの詩は日本中に、さらに海外11か国語に翻訳され、世界中に広がっています。そのみすゞさんの詩の力について、読売新聞(九州・山口総合)より一部をご紹介します。



1. 温かな視線 心に響いた

「多くの人が言葉を失い沈黙していた震災直後、注目を集め、広く受け入れられた『言葉』があったことを忘れてはならない」

岩手県立花巻北高校の文芸部は、2012年に発行した文芸誌「花北文学55号」に掲載した論文で、郷土の偉人・宮沢賢治の「雨ニモマケズ」とともに、童謡詩人・金子みすゞの「こだまでしょうか」を取り上げた。

こだまでしょうか

「遊ぼう」^{あそ} っていうと

「遊ぼう」 っていう。

「馬鹿」^{ばか} っていうと

「馬鹿」 っていう。

「もう遊ばない」 っていうと
「遊ばない」 っていう。

そうして、あとで
さみしくなって、

「ごめんね」 っていうと

「ごめんね」 っていう。

こだまでしょうか。

いいえ、^{だれ}誰でも。

テーマは「震災と文学」。震災後、ACジャパンのテレビCMで流れた「こだまでしょうか」が、大きな反響を呼んだ理由を紹介した。「『頑張れ』とか『大丈夫』とか、そんな言葉が無力になるほどの悲しみや不安に包まれた状態だったから、みすゞの優しい言葉が響いたのです」。詩を分析した同校3年の上平詩織さん(18)は、その魅力を語る。

論文では、みすゞについて、「父との死別や夫との離婚など、悲しみにあふれた生涯を送ったからこそ、優しきや人のつながりを大切に詩が書けた」と分析。「彼女の視線は、どんななものにも温かい。普段は適温過ぎて気づかないけれど、心を失いかけた時、その温かさと大切さに気づく」と結論づけた。

論評は高く評価され、花北文学55号は12年度の高校文学誌の全国大会で最優秀賞に輝いた。上平さんは今、改めて思う。「あの時、数え切れないほどの人たちが、みすゞの詩で心が優しくなり、周囲の人を大切だと思い始めたはず。『言葉』には無限の力がある」

震災後、「こだまでしょうか」のCMは、スポンサーが自粛して空いたCM枠で頻繁に流されたが、制作されたのは震災の約1年前だった。

制作した電通のコピーライター堀越富美子さん(29)は、「テーマは『人と人との関わり合い』優しく話しかければ、相手も優しく答えてくれることを伝えたかった」振り返る。小学校低学年の頃、母親が買った詩集でみすゞの詩と出会い、「こだまでしょうか」が特に印象に残っていたという。

震災後、堀越さんのもとには、「心が和んだ」「人と人のつながりを感じた」などの多くの反響が寄せられた。なぜ、それほど人々の心をとらえたのだろうか。

「人は、たった一言で傷つくこともあれば、ほほ笑むこともある。そんな普遍的な原理がやさしい言葉で表現され、多くの人々が自分に重ね合わせることができたのでは」。

2.命と向き合う 患者に“処方、

山口市で診療所を営む医師、末永和之さん(66)は、患者に金子みすゞの詩を“処方、する。詩が、「命との向き合い方を教えてくれるから」だ。

1月21日、同市内の自宅で療養をする久幸妙子さん(95)を往診した末永さんは、聴診器を手に「みそはぎ」を紹介した。



みそはぎ
ながれの騎士のみそはぎは、
誰だれも知らない花でした。
ながれの水ははるばると、
とおくの海へゆきました。
大きな、大きな、大会で、
小さな、小さな、一しずく、
誰も、知らないみそはぎを、
いつもおもって居おりました。
それは、さみしいみそはぎの、
花からこぼれた露つゆでした。

「流れた露は、一滴ずつが輝いている。最後は天にのぼり、また地上に降りる。そうして、命はつながっているのです」

末永さんの言葉を聞きながら、久幸さんは穏やかな表情でうなずいた。長女的美沙子さん（67）は「母を介護する中で、私も命と向き合うことが増えました。母という命が残した露が、私なんです」とほほ笑んだ。

末永さんは山口赤十字病院（山口市）に勤務していた1990年、がんで入院していた男性患者が「狭い病室では人間らしい生活は送れない」と訴える姿に胸を痛めた。

詩人であり、終末期医療の充実を求める市民運動にも取り組んでいた男性患者は、闘病の心境を「最後に（小さく）静かに死ねますように」などつつづいた。

「自分らしく、最後を迎えられる場所を」。男性の死後、末永さんは全国約90か所の赤十字系の病院で、初めてホスピス病棟を開いた。「みそはぎ」に出会ったのも、同じ頃だった。

紫色の花を咲かせるミソハギは、仏が花の露で喉を潤すとされ、盆花として使われる。これまでに5000人を超える患者の死と向き合ってきた末永さんは、「みそはぎ」を「命の循環を表している詩」だと語る。

2008年の中国の四川大地震後、四川省のある小学校は、被災した児童の心のケアとしてみすゞの詩を教材にした。両親を失ったある児童は自分を露になぞらえて、こう書いたという。「両親をずっと忘れない。この『みそはぎ』のように、ずっと忘れない」

末永さんは、「みそはぎ」以外のみすゞの詩も、患者に紹介する。「小さいものや、目に見えないものに意味を見いだす、みすゞの詩は、死と向き合っている人に力を与えてくれる」。詩を聞いた多くの人が、やさしい表情を浮かべるといふ。

末永さんは思う。「どんなに医学が発達しても、人は死を受け入れなければならない瞬間が来る。安らかな最期を迎える人はその瞬間、周囲の人々に感謝できる。『みそはぎ』の露は輝く命。大海に流れ着いた人が安寧な心になれるよう、橋渡しをしたい」

ミソハギ(クロンキスト体系)



みそはぎ

湿地や田の畔などに生え、また栽培される。日本および朝鮮半島に分布。茎の断面は四角い。葉は長さ数センチで細長く、対生で交互に直角の方向に出る。お盆のころ紅紫 6 弁の小さい花を先端部の葉腋に多数つける。

盆花としてよく使われ、ボンバナ、ショウリョウバナ（精霊花）などの名もある。ミソハギの和名の由来はハギに似て襖（みそぎ）に使ったことから襖萩、または溝に生えることから溝萩によるといわれる。